

# 第11

日本共産党区議会議員  
Japanese Communist Party

## 安藤たい作「初」一般質問レポート(前編)



# 安藤たい作 ニュース

# 品川区に、「ワーキングプア」 拡大当事者の自覚なし!

11月24日、私・安藤たい作は第四回定例議会の本会議場においての初の一般質問を行いました。取り上げた問題は雇用と教育の二本立てでしたが、今週はその内の「品川区は『ワーキングプア』の解消に力を注げ」について報告したいと思います。

働いても働いても生活保護水準以下の賃金しか手にすることのできない「ワーキングプア」層が増え社会問題になっています。私が訴えたのは、品川区自らが「行財政改革」の名の下で職員を削減、不安定なパートや派遣に置き換え、「ワーキングプア」を作り出してきたという問題でした。その品川区の「何が何でも財政効率最優先路線」の元、仕事に誇りを持ちながらも生活が成り立たず、将来の展望も閉ざされてしまっている労働者がいます。私は質問中、図書館の窓口で働いていた30代の女性派遣労働者の実態を取り上げました。

「時給は900円。一日5時間15分勤務で、週4日。月収7万2千円。社会保険の適用なし。数年前に夫がなくなり、高校生になるお子さんもいる。他に二つのアルバイトを掛け持ちし生計を立てる。休みはかろうじて週に一回取れるか取れないか。『体が壊れるんじゃないか』と追い詰められ辞めざるをえなくなった」

私はこの実態を紹介した後、次のように訴えました「この方は、図書を推薦してくれるなど、情熱を持って図書館業務にあたっていた正規職員の姿を見、接する中で『自分もそういう仕事をしてみたい』と思い、図書館勤務を選んだそうです。しかしそうした情熱を、今の区の仕事の中での方は放棄せざるをえなかった。とても辛いことだったでしょうし、社会全体にとっても大きな損失といえるのではないのでしょうか。」

品川区の答弁はといえば「(正規職員を非正規に)置き換えてはいない。事業の見直しなど、創意工夫した結果だ」(派遣先労働者の労働環境については)派遣会社が法令にのっとり責務を果たすべきものと考えろ」というもの。これまで正規職員で行っていた図書館窓口業務を民間委託して派遣にしたのを置き換えと言わずして何というのでしょうか?紹介した派遣労働者の実態にも心を寄せず、委託をした側の責任、もっと言えば区民の命と暮らしを守る自治体の責任すら感じないという区の態度はあんまりです(怒)。

事前に通告する「質問」と区答弁はTV放映されますが、十斤の再質問以降のやりとりはなぜかカットされます。



漫画: 安藤たい作

**安藤たい作プロフィール** '74年 宮城県仙台市生まれ32歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。'02年 青年誌奨励賞受賞。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。4年の派遣労働経験を経て、'06年の品川区議会議員補欠選挙で初当選。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

**安藤たい作ニュース** は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。

